

令和3年度

施策評価表(令和2年度の実績評価)

記入年月日
令和3年6月25日

施策No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	農林課	主管課長名	島田 晴朗
4-1	施策名	農林業の振興	関係課	農業委員会、商工観光課、生活環境課、給食センター、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目
的

施策の対象		対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
農業者	①販売農家戸数	人	見込値	1,600	1,580	1,560	1,540	1,520	
			実績値	1,581	1,581	1,581	1,581		
		人	見込値						
			実績値						
			見込値						
			実績値						
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
担い手が育成されて、農業が活発に営まれている。	①市内の農業所得総額	千円	目標値	380,000	390,000	400,000	410,000	420,000	
			実績値	548,119	710,249	561,030	426,552		
	②認定農業者数	人	目標値	285	290	295	300	310	
			実績値	280	276	260	250		
	③耕作放棄地面積	a	目標値	4,107.0	4,153.0	4,199.0	4,245.0	4,291.0	
			実績値	4,760.0	5,173.0	5,242.0	5,090.0		
	④山林整備面積	ha	目標値	16.5	15.0	15.0	15.0	15.0	
			実績値	16.8	9.97	8.14	9.3		
	⑤有害鳥獣捕獲頭数	頭	目標値	750	750	750	750	750	
			実績値	793	1,296	1,247	1,605		
成果指標設定の考え方		農業が活発になるためには、地域農業の担い手である認定農業者の増加に加え、農業従事者の所得向上が不可欠である。 また、それらを満たす条件として、耕作放棄地の減少や有害鳥獣の駆除などの農村環境の整備が必要である。							
成果指標の把握方法と算定式等		①「市内の農業所得総額」－税務課の課税データ ③「耕作放棄地面積」－農業委員会所管の耕作放棄地調査表 ⑤「有害鳥獣捕獲頭数」－農林課所管の有害捕獲計画 ②「認定農業者数」－農林課所管の認定農業者名簿 ④「山林整備面積」－農林課所管の森林整備事業実施面積							

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1)現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？)			
実績比較	☐ 成果がかなり向上した	☒ 成果がどちらかといえば向上した	☐ 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	☐ 成果がどちらかといえば低下した	☐ 成果がかなり低下した	
背景・要因	①農業所得については、令和元年度561, 030千円、令和2年度426, 552千円と減少している。原因としては、6・7月の長雨、8・9月の高温により作物収量減少と新型コロナウイルスによる外食への流通減少等の要因ため、減少した。 ②認定農業者数は、令和元年度は260人、令和2年度は250人と減少している。これは、認定農業者の死亡及び高齢化による未就農が考えられる。また、認定農業者数は減っているが認定農業者一人当たりの集積面積が増えている状況にあり、集積率は平成30年度49. 5%に対し令和元年度が50. 5%、令和2年度が51. 8%と毎年1%程度増加している。 ③耕作放棄地については、令和元年度5, 242aであったが、令和2年度は5, 090aと、152a減少している。 ④山林整備面積については、令和2年度は9. 3haで前年度に比べ1. 16ha増加している。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、令和元年度の捕獲頭数は1, 247頭、令和2年度の捕獲頭数は1, 605頭で358頭増加している。 ・5つの成果のうち、3つが前年度成果を上回ったので、「成果がどちらかといえば向上した」とする。		
と			
実績比較	☐ 目標値のすべてを上回った	☒ 一部の成果指標で目標値を上回った	☐ 目標値どおりの成果であった
	☐ 一部の成果指標で目標値を下回った	☐ 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①市内の農業所得総額は、目標値410, 000千円に対し、426, 552千円と目標値を上回った。 ②認定農業者数は、令和2年度目標値300人に対し250人と50人下回った。 ③耕作放棄地面積は、令和2年度目標値4, 245aに対し5, 090aと、前年よりは減少しているが目標達成には至らなかった。 ④森林整備の要望による事業であり令和2年度目標値15. 0ha対して9. 3haと下回った。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、令和2年度目標値である750頭に対して1, 605頭と目標値を大きく上回った。 ・①～⑤について目標値を下回っているものが多いが、①農業所得、⑤有害鳥獣捕獲頭数が大幅に上回っているため「一部の成果指数で目標値を上回った。」とする。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。 ①人・農地プラン事業 高齢化や農業の担い手不足等が心配される中、地域内の話し合いに基づき、将来的に当該地域の農業の中心的な役割を果たす農業者や農業の在り方などを明確化することができた。 ②農業経営支援事業 認定農業者等の担い手に対し、必要な農業機械やパイプハウス等の資材費補助を行い、経営の支援を行った。 ③儲かる産地支援事業 ICTや高性能機械など低コストで高品質な農産物が生産できる仕組の導入を進め、収益性の高い農業経営を実践する担い手の育成支援を行うことができた。	認定農業者は、減少傾向にあるが、量から質への転換し、生産性の向上や各種助成制度を利用して、効率的な農業経営の確立を図る。 担い手の高齢化については、新規就農者を確保し、地域農業を担ってもらうために、段階的な支援を実施していく。 耕作放棄地については、農業委員及び農地利用最適化推進委員による実態把握調査を行い、また補助事業等で耕作放棄地の解消を図る。 有害鳥獣対策事業のイノシシ捕獲の担い手の確保及び育成を推進していく。